

登場人物

語り部（ナレーションN）

がっちゃん

男

神様

冷蔵庫

炊飯器

ケトル

急騰ポット（ケトルの母親）

テレビ

ヒーター

水たまり

洗濯機

掃除機

※家電製品は作り物でない方が望ましい。

※語り部は舞台上手前に座り、大人が子供に絵本を良い聞かせるように語る。

※男の台詞はすべて語り部が代弁する。

※男は常に舞台上において、劇の進行を語り部と共に見守っている。

※家電製品の横にはモニターがあり、TV（という設定）によって家電の音が手話翻訳される。

①男のアパート

男がダイニングテーブルの上で眠っている。

チューニングの狂ったラジオのノイズが聞こえてくる。

男はゆっくりと目を覚ます。

N ある晩のこと、冷蔵庫が彼に話かけました。

冷蔵庫 お願いがあるんです。

N 彼はまださっきの夢が続いているのだと思いました。だから冷蔵庫が喋ったことに対して何の違和感もありませんでした。

冷蔵庫 がっちゃんを探してほしいんです。

N (男) がっちゃん？誰のこと？

冷蔵庫 私の息子です。ここに来る前、私たちはソラナックスの街で一緒に暮らしていました。でもあの日、がっちゃんは私の前からいなくなってしまったんです。

N (男) ……いやその、いきなりそんなことを言われても。

冷蔵庫 明日、新しい冷蔵庫、買うんですね？

N (男) ……知ってたんだ。

冷蔵庫 もちろん。私はこの家を出たら、廃品工場に行って、それでおしまいです。私の最後のお願い、聞いてもらえませんか？

N (男) ……いいよ。君には世話になったから。

冷蔵庫 ……ありがとうございます。

N (男) ごめんね。本部転勤も決まったし、引っ越しついでに一式買い換えようと思ってさ。

冷蔵庫 昇進おめでとうございます。

N (男) ありがとう。これで貧乏生活ともお別れだよ……で、どうやって君の息子さん、探せばいい？

冷蔵庫 私の扉を開けてください。その向こうには私の思い出があります。その中でどうしてがっちゃんがいなくなったのか、がっちゃんはどこへ行ってしまったのか調べてほしいんです。街の人々はとても親切です。色んなことを教えてくれるはずです。

N (男) わかった。どうせ夢だし、やってみるよ。

冷蔵庫 お願いします。もう一度だけがっちゃんに会いたいんです。

男が冷蔵庫の扉を開けると眩い光が溢れ出して……

②ソラナックスの街

男が立っている。

どうやら駅前前の広場のようだ。  
空は曇っている。

灰色の街。

男の隣には少年（がっちゃん）がいる。

しかし男は気がついていない。

北風が吹く。

男は寒そうに身体を縮こめる。

男は歩き出す。

嬉しそうに後ろをついていく少年。

N ここはソラナックスの街です。ソラナックスの街はどこにでもある普通の街でした。学校があり、交番があり、本屋があり、スーパーマーケットがありました。公園があり、駅があり、市役所があ李ました。ただ、この街には人がいませんでした。

N 彼はどうかと考えます。すると閃いたようです。

と男は歩き出す。

店を探しているようである。

やがて立ち止まる。

N やっぱりありました。電気屋さん。ここは冷蔵庫の世界なんだから、きっと他の家電製品も話ができるに違いありません。

男は電気屋の中へ入る。

N 店内に入りますと、中にはたくさん家電製品が置いてあります。電気屋さん、ワクワクしますよね。でもどういうわけか、どれも汚れきっています。彼は家電製品に向かって、一つずつ声をかけていきます。

※この間、少年は家電製品を弄って遊んでいる。

N（男） すいませーん。すいませーん。

沈黙。

N（男） すいませーん。すいませーん。

N でも誰も返事をしてくれません。困ったなあ……するとどこからか、声が出ます。

声 誰じゃ？

男が声の方へ目を向けると。暖房器具のコーナーでヒーターが赤くなっている。

N 声の主はヒーターでした。

ヒーター あんた、そこで何をしとる。

N(男) えっと……あの、がっちゃんって知ってますか？

ヒーター がっちゃん……？

N(男) ええ。冷蔵庫の息子さんらしいんですけど。

ヒーター あんた、がっちゃんのお友達かね。

N(男) 知ってるんですか？がっちゃんのこと？

ヒーター 懐かしい名前だ。

N(男) がっちゃんは今、どこにいるんですか？

ヒーター がっちゃんは今もう随分前にいなくなっちゃったよ。噂では誘拐されたとか。

N(男) 誘拐ですか……

ヒーター 本当のところはわからないがね。他の家電製品に聞けばわかるかもしれない。

N 彼はもう一度、他の家電製品に話しかけます、でもやっぱり返事はありません。

N(男) あのう、みんな、返事をしてくれないんですけど。

ヒーター 当たり前じゃ。もうみんな死んでいるよ。

N(男) え？

ヒーター ここは家電製品の墓場なんじゃ。神様が引退して以来、誰もわしらを修理できない様になったからな。

N(男) 神様？神様がこの街にはいたんですか？

ヒーター 神様は今、老人ホームにいるよ。神様ならがっちゃんについて何か知っているかもしれない。神様はがっちゃん、とても仲が良かったからね。

N(男) わかりました。ありがとうございます。行ってみます。

男は去ろうとするが、振り返って、

N(男) すいません。老人ホームってどこにあるんですか？

ヒーター ……

N(男) あの、すいません。

男はヒーターのスイッチを弄るがもう動かない。

少年が戻ってくる。

男と少年はヒーターに向かって手を合わせる。  
するとそこは……

③ソラナックスの老人ホーム

N ここはソラナックスの老人ホームです。彼は受付にいた給湯ポットに声をかけました。

N (男) すいません。あの神様に会いたいですけど。

ポット ……どうぞ。こちらへ。

N 彼は給湯ポットの後をついていきます。するとそこは憩いの場。たくさん年離れた家電製品たちが、パズルをしたり、縫い物をしたり、居眠りをしたりしています。

少年はニコニコしながらどこかへ消えてしまう……

ポット あちらが神様です。

すると奥から腰を曲げた神様がやってくる。

N (男) こんにちは。神様。

神様 ま、ま、ま、まじつく。

N (男) こんにちは。神様。

神様 ま、ま、ま、まんとひひ。

N (男) 神様。こんにちは。

神様 わ？わ、わ、わ……わいどしよう。

N (男) 神様、別にしりとりじゃないよ、これ。

神様 れ？れ、れ、れ……れんこん！！あー！！「ん」言っちゃった！

ポット 神様はもう、普通にお話しすることは難しいのですよ。

N (男) そうなんですか……

N 多くの家電製品にとって医者であった神様は、文字通り神様でした。なぜソラナックスの街がゴーストタウンと化していたのか、彼はようやくその理由がわかりました。神様がアルツハイマーになった今、もう誰も家電製品を治せる人がいないのです。

ポット 神様に何の御用です？

N (男) がっちゃんについて聞こうと思って。

N　すると憩いの場にいた家電製品たちが突然、色めき立つ。  
「がっちゃん？」「がっちゃん？」「がっちゃん？」「がっちゃん？」  
やがてがっちゃんコールが起き始める。

N　彼は驚きました。憩いの場にいた家電たちが一斉にがっちゃんについて話始めたのです。「がっちゃんの話ならなんでも聞いておくれ」「わしはがっちゃんとても仲がよかったんだ」「がっちゃんは優しい子供だった」……そうして彼らの話に耳を傾けることになったのです……

#### ④冷蔵庫のお家

N　20年前の夏の朝、とつぜんお腹が痛くなった冷蔵庫からがっちゃんが生れました。

赤ん坊の泣き声が冷蔵庫の中からする。

男は冷蔵庫を開けて覗いてみる。

炊飯器　しかもね。がっちゃんは裸ではなく、幼稚園の制服を着ていたのよ。そしてサイズが全然合っていないかったの。

N　と当時、冷蔵庫の家でハウスキーパーをしていた炊飯器は彼に言いました。

炊飯器　しかも見たこともない制服。名札にはがっちゃんって書かれてあった。冷蔵庫の奥さんはたぶん、「神様が間違えて自分の身体に、人間の子供を孕ませてしまったんだ」と思ったのよ。

N　冷蔵庫は慌てて家を飛び出し港へと向かいます、神様の真意を確かめるために。ずるずるのヘソの緒、コンセントを引きずりながら。どういうわけかこの街には神様がいて、神様は週に一回船に乗り、ソラナックスの街にやってくるのでした。神様はお医者様でした。

#### ⑤神様の診察室

神様が鼻歌を歌いながら、カルテに何かを書いている。

そこへ冷蔵庫がやってくる。

神様　やあ。冷蔵庫の奥さん。今日はどうされましたか？風邪でも引いた？

冷蔵庫　神様、大変なことになりました。

神様　大変なこと？

冷蔵庫　できちゃったんです。

神様　……そうかいそうかい。おめでどう！よし。一度確認してみよう。股を開いてくれるかな？

冷蔵庫　それが、神様……

神様 何も恥ずかしがることはない。妊娠すれば、どんな冷蔵庫も股を開いて私に見せるものだ、さあ見せなさい。

冷蔵庫 もう生まれちゃったんです。しかも人間の男の子。

神様 え？

冷蔵庫 私、妊娠した覚えなんか全然ないんですけど。

神様 ……まさか。

冷蔵庫 本当なんです。股を開いてもらえたらわかります。

すると再び、赤ん坊の泣き声が冷蔵庫から聞こえてくる。

神様はゆつくりと冷蔵庫を開ける。

そして中を確認してからゆつくりと閉める。

神様 相手は誰だね？

冷蔵庫 私、人間を相手になんてしてません。というかこのソラナックスの街に人間はいませんから。

神様 嘘をつきなさい！誰にも言わないから本当のことを言うんだ！

冷蔵庫 誓います！私は処女です。

神様 ……ありえない。

冷蔵庫 私、聖書で読んだことがあります。マリアは処女で神の子供を授かったと……

神様 ……まさか私が無理やり、君を襲ったとでも言うのかね。覚えがない！まーったく覚えがない。

冷蔵庫 違います。そうではありません。ただ神様の意志により私はこの子を授かったのかと……

神様 そんなことできるわけがないじゃないか。みんな私のことを神様だというが、私はただの医者だよ。

冷蔵庫 では、神様の意志ではないのですね。

神様 知らない。まったく知らない。

冷蔵庫 ……そうですか……ありがとうございます。

冷蔵庫は去ろうとする。

神様 待ちなさい。君はその子を育てるつもりか。

冷蔵庫 そのつもりです。

神様 やめておきなさい。冷蔵庫が人間の子供を産む。それはただでさえ間違ったことなんだ。必ず後悔することになるよ。

冷蔵庫 ……これは私の息子です。

冷蔵庫は診察室を出ていく。

N 神様の忠告通り、それから五年後、がっちゃんはソラナックスの街からいなくなっていました。冷蔵庫は悲しみに打ちひしがれました。がっちゃんはいったい、どこへ行ってしまったのでしょうか。

少年がどこからともなく現れる。

やはり男は少年の存在に気が付いていない。  
少年がテレビのスイッチを入れるとそこは……

⑥ ソラナックスの老人ホーム

男はテレビを見ている。

テレビが話し始める。

テレビ 台風18号が接近しております。台風18号が接近しております。

N (男) 覚えてます？がっちゃんがいなくなった日のこと。

テレビ もちろん。忘れもしないよ。あの日からがっちゃんは、僕のスイッチを押してくれなくなったんだからね……君は僕のことをどう思う？用済みだと思ukai？

N (男) え？

テレビ 僕はアナログテレビだ。これがどういことだかわかるかな？

N (男) わかりませんが。

テレビ (遮って) 無職ってことだよ！！

N (男) ……すいません。

テレビ 生まれ変わったらデジタルテレビに僕はなりたい！！アナログテレビっていうだけで面接さえしてもらえないんだ！

N (男) 泣かないでください。

テレビ ありがとう。こんな優しい言葉をかけてくれたのは君が初めてだ。君はハローワークに就職するべきだ。

N (男) 考えておきます。

テレビ がっちゃんの話だったね。

N (男) ええ。あの日、がっちゃんはどんな様子でしたか？

テレビ 明らかにいつものがっちゃんとは違っていたよ。冷蔵庫の奥さんといきなり大喧嘩を始めて、家を飛び出していったんだ。僕は気圧されてしまって何も言えなかった。

N (男) がっちゃんはいったどこへ行ったのでしょうか？

テレビ たぶん親友の神様の船に家出しようと思ったのさ。そしてその途中でがっちゃんの身に何か起きたんだ。

⑦ 神様の診察室

N さて、がっちゃんがこの街からいなくなる前まで時間を戻します。神様の診察室に、五歳のがっちゃんがやってきました。

神様は聴診器を小さな電気ケトルの胸に当てている。

するとがっちゃんが現れて、神様に声をかける。

がっちゃん かーみさま。あーそーぼー。

神様 神様は今、診察中。

がっちゃん 診察いつ終わる？また宇宙のお話して。

神様 まだ終わらない。

がっちゃん 神様。

神様 何？

がっちゃん あーそーぼ。しりとりしよー？

神様 がっちゃん、私の話、聞いてたかい？

がっちゃん んーん。聞いてない。

神様 聞きなさいよ。そこで待ってなさい。

がっちゃん はーい。

神様 (ケトルに) ちょっとお母さんと話してくるから待っててね。

神様は診察室を出て行く。

がっちゃん こんにちは！

ケトル こんにちは。

がっちゃん 僕、がっちゃん。5歳。ソラナックス幼稚園のコスモス組。

ケトル ふうん……私、電気ケトル。5歳。

がっちゃん あ。5歳、おなじだね。ケトルちゃんは何組？セキララ組？モノリス組？ブラックホール組？

ケトル わたし、幼稚園行ってないの。

がっちゃん え？どうして？幼稚園楽しいよ！お絵かきしたり、お昼寝したり、鬼ごっこしたりするの。

ケトル 私、身体が弱いから。身体のネジがおかしくて、上手くお湯が出ないの。

がっちゃん へー！かわいいそう！

ケトル 全然かわいそうって思っていないでしょ！

がっちゃん うん！だってケトルちゃん、全然かわいそうじゃないよ。だって神様はみんなの病気、ゼーんぶ治して

くれるもん。

ケトル 本当に？

がっちゃん 本当だよ。大切なのは神様のことを信じることなんだよ。お母ちゃんがそう言った。

ケトル ……わかった。あたし、神様のこと信じてみる。

がっちゃん ねえ。ケトルちゃん。お友達になろう。

ケトル でも私、病気だからみんなと一緒にお外で遊べないよ？

がっちゃん いいよ！お部屋でしりとりとか絵本読んで遊ぼう？はい。これ。

とがっちゃんはアメ玉をポケットから出す。

がっちゃん オレンジとグレープ、どっちがいい？

ケトル オレンジ。

がっちゃん じゃあ僕はグレープ。

がっちゃんはアメ玉をケトルの口の中に入れてやる。

がっちゃん　これでお友達だね。あとアメちゃんは舐めるんじゃないなくて噛むのがおいしいんだよ。これ、がっちゃんの新発明！

がっちゃんはガリガリとアメを齧り始める。

笑い合う二人。

二人がじゃれあっていると、診察室の窓に水滴がポツポツと落ちてくる。

雨が降り始めたのだ。

がっちゃん　あ、雨だ。じゃあケトルちゃん。僕、お家に帰るね！

ケトル　ばいばい。がっちゃん、またね。

神様が入ってくる。

がっちゃん　神様、僕、もう帰るよ！用事ができたから。

神様　幼稚園児に用事があるのかい？

がっちゃん　たまりちゃんに会うの。

神様　傘を持っていきなさい。今度返してくれたらいいから。

がっちゃん　ありがとう！神様！

N　診察室を出たがっちゃんは、雨の降るソラナックスの街を駆けていきます。するとがっちゃんは水たまりを見つけてきました。

がっちゃん　見つけた！！

水たまり　よう。久しぶりだね。

がっちゃん　どこ行ってたの？

水たまり　空の上の雲の中で眠ってたんだ。

がっちゃん　えーそうなんだ？ねーねーお空の上って何？

水たまり　え？何って何？

がっちゃん　だってお空は上にあるんでしょ？その上って何？お空ってどこからどこまでがお空なの？

水たまり　空の上は空の上だよ？え？どっから？いやそれはあれだよ、ほらほらえーっと……あの辺！

がっちゃん　へえ。あの辺がお空の上なんだね。僕、雨大好きなの。長靴履けるし傘もさせるんだ。見て。こうやって口を上に向わって開けると……水も飲める！それでそ一番の楽しみが……

がっちゃんは水たまりをバシバシと踏みつける。

二人ははしゃぐ。

がつちゃん　がつちゃんな、今までも今もこれからもずっとたまりちゃんのこと、バシヤバシヤするからね？いいよね？

水たまり　もちろんいいよ。でもね。がつちゃん。大人になったら君は私のこと見つけるのが難しくなっちゃうよ。がつちゃん　え？なんで？

水たまり　私はね。なかなか大人には見えないの。例えば、君がその頭の良さでキャリア官僚になったとする。そして、君は水たまりを探す暇なんてなくなっちゃうんだ。頭の中は仕事ばかり。バシヤバシヤが入る余地なんてこれっぽっちもなくなっちゃうんだ。

がつちゃん　そんなことない！僕、大人になっても必ずたまりちゃんを見つけてバシヤバシヤするよ！

水たまり　……ほんとに？

がつちゃん　約束するよ。「約束を破ったら友達いなくなっちゃうよ」ってお母ちゃんいってたもん。たまりちゃん　はがつちゃんの一生のお友達だよ。

水たまり　……ありがとう。

がつちゃん　どういたしまして！！

N　すると買い物帰りの冷蔵庫がやってきました。

がつちゃん　あ。お母ちゃん！！

冷蔵庫　何してるの？

がつちゃん　たまりちゃんと遊んでたの！

冷蔵庫　もう帰る時間よ。

がつちゃん　うん！じゃあまたね！たまりちゃん！

⑧お母さんとの帰り道

少年と冷蔵庫は傘を差しながら手を繋ぎ、歩いている。

がつちゃん　おかあちゃん、しりとりしよう。今日、神様とやろうと思ってたんだけど、神様、全然相手にしてくれなかったの。

冷蔵庫　がつちゃん。神様のお仕事、邪魔しちゃ駄目よ。

がつちゃん　じゃあがつちゃんから……マ、マ……マカロニ。

冷蔵庫　にぎりめし。

がつちゃん　し、し、しまうま。

冷蔵庫　マンモス。

がつちゃん　スイカ。

冷蔵庫　かいぞく。

がつちゃん　く、く、くれよん！

冷蔵庫　ブブー。

少年 え？なんで？くれよん合ってるよ！

冷蔵庫 「ん」を言ったら負けだよ。

少年 違うよ！しりとりにそんなルール、ないよ！

冷蔵庫 明日、神様に確認してみなさい。

⑨がっちゃんとお家

二人は家に着く。

がっちゃん お母ちゃん、今日のご飯は何？

冷蔵庫 今から作るからちょっと待っててね。まず手を洗いなさい。

がっちゃん はい。

がっちゃんはお洗面所へ。

手を洗い始める。

N がっちゃんが洗面所で手を洗い終わると、後ろでぐるぐると洗濯機が回転し始めました。

がっちゃん よ！！

洗濯機 (無愛想に) 何？

がっちゃん 何してるの？

洗濯機 見たらわかんだろがぁ……回ってるんだよ。

がっちゃん ふうん……洗濯機はすごいねえ。がっちゃん、洗濯機みたいに回れないよ。

洗濯機 当たり前だ。いいか？ここだけの話、この回転は俺にしかできない回転なんだよ。ちょっと見てもらったわかるんだけど、(回転音が少し変わり)普通のやつだったら、ここをこうやってこういう感じで回転させるんだけど、俺は違うんだよね。見て、この回転見て？(さらに少しだけ回転音が変わって)ほらわかる？俺はこの回転をあえてこういう感じの回転にすることで偶然にも新しい形の回転を発明しちゃったんだよね。

がっちゃん かつこいい！

洗濯機 何を今更。

がっちゃん ねえねえ！洗濯機は目は回らないの？

洗濯機 (偉そうに) あーうん。そうきた？きちゃった？まあそうくるだろうなあとは思ってたけど、やっぱりきちゃったね、うん。いい質問ですね。まあ簡単に言うけどね、俺が回っている、というよりも世界が回ってる感じだよ。だから目を回すのはどっちかっていうとあれだよ、世界だね。

がっちゃん ねえ！もつと凄い回転、がっちゃんにも見せて！

洗濯機 (まんざらでもない様子で) ……しょうがねえな。よし。今日は特別だからな。

がっちゃん 見せてくれるの！？

洗濯機 おお。これから見せるのは未だかつて誰も成し遂げることの出来なかった伝説の回転だ！しっかり目に焼き付けとけよお！

洗濯機の回転がどんどん早くなっていく。

がっちゃん　すごい回ってる！

洗濯機　まだだ……ここからだ。ここからの回転がやばいんだ……この先の回転でたくさんの洗濯機が命を落としてきたんだ……

さらに回転の激しさが増す。

洗濯機　いける……いける……いけるいけるいける！

すると変な音がする。

洗濯機　あ痛あああ！

急速に洗濯機の回転がゆっくりになっていく。

洗濯機　腰が……腰が……

がっちゃん　うきやきやきやきや！

洗濯機　笑うなあ！

冷蔵庫が洗面所に顔を出して、

冷蔵庫　がっちゃん。ご飯、できたわよー。

がっちゃん　はーい。がっちゃん、ご飯食べてくる。

洗濯機　うう……またやってしまった……

N　がっちゃんがリビングに戻ると、トースターが真っ赤になっています。

少年はトースターの中を確認する。

がっちゃん　グラタンだ！

チン！と小気味の良い音がする。

がっちゃんは中から小さいグラタンを取り出す。

がっちゃん　いただきます！

とグラタンを食べる。

がっちゃん おいしー。今日、お友達ができたの。ケトルちゃんっていうの。

冷蔵庫 あら、よかったわね。

がっちゃん ケトルちゃんは神様に病気を治してもらうんだ。

冷蔵庫 そう。治るといいわね。

がっちゃん 絶対、治るよ。だって神様だもん。ねえ、がっちゃんは病気にならないの？

冷蔵庫 がっちゃんはとても健康だから、生まれて一度も病気をしたことがないのよ。

がっちゃん へー。がっちゃん、超タフ！

冷蔵庫 がっちゃん、英語なんてどこで覚えたの？

がっちゃん 明日、またケトルちゃんのお見舞いに行つていい？

冷蔵庫 ええ、もちろん。

#### ⑩ケトルの病室

N 次の日、がっちゃんは再び、ケトルちゃんの病室を訪れました。

ケトルがベッドの上で絵本を読んでいる。

がっちゃん こんにちは。

ケトル こんにちは。

がっちゃん ケトルちゃん、からだ、よくなった？

ケトル んーん。まだ。でも今日はちょっと元気だよ。

がっちゃん そっか。ケトルちゃん何の絵本、読んでるの？見せて。

ケトル いいよ。

がっちゃんは絵本を手取る。

それは魚の絵本だ。

がっちゃん うわあ。綺麗だね！

ケトル お母さんが買ってくれたの。

がっちゃんは夢中で読んでいる。

ケトル ねえ。がっちゃんはお魚見たことある？

がっちゃん あるよ！お母さんのお腹にある冷凍食品、よく食べる！

ケトル んーん。そうじゃなくて生きてるお魚。

がっちゃん え？……ないかも。

ケトル 私、あるんだ。

がっちゃん え？そうなの？どこで？

ケトル がっちゃん、水族館って知ってる？

がっちゃん がっちゃん、水族館知らない。

ケトル ソラナックスの街のはずれにあるんだよ。昔、お母さんに連れて行ってもらったことがあるの。ねえ、がっちゃんは私のお友達だよ。私のお願ひ聞いてくれる？

がっちゃん うん！いいよ！

ケトル 今から一緒に水族館に行こう。

がっちゃん え？……んー。でも神様がケトルちゃんは病気だから、じっとしてなきゃ駄目だって言ってた。

ケトル 大丈夫、今日は元気だから。お願ひ。

⑩ソラナックスの老人ホーム

男とポットは向かい合っている。

ポット あの日は本当に大変だったわ。

N 彼女のことを覚えているでしょうか？老人ホームで彼を案内してくれたあのポットです。実は彼女がケトルちゃんのお母親でした。

N (男) ケトルちゃんに魚の本をあげたことは覚えていますか？

ポット もちろん。私も子供の頃、あの本が大好きだったのよ。

⑪ソラナックス水族館

がっちゃんとケトルが水族館の中を歩いている。

がっちゃん 本当にここが水族館？

ケトル うん。

がっちゃん 物凄く水がたまってるね！きつとたくさん雨が降ったんだね！

ケトル 違うよ。がっちゃん。これは水槽っていうんだよ。この中でお魚が泳ぐの。

がっちゃん そうなんだ！え？でもお魚全然いないよ。お魚どこ？

ケトル みんな死んじゃったんだって。

がっちゃん そうなの？

ケトル 私のお母さんが小さい頃はたくさんお魚が泳いでたんだってさ。

がっちゃん でもケトルちゃん、生きてるお魚見たことあるって言ってたじゃんか。

ケトル うん。お母さんと来たとき、一匹だけいたの。がっちゃんも一緒に探して。

N 二人は水族館を探し回ります。

がつちゃん ケトルちゃん……もしかしてあれ？

がつちゃんは水槽を指差す。

N そこにいたのは真っ赤な金魚です。

がつちゃん うわあ……きれいだね。きれいだね。

ケトル ……

がつちゃん ケトルちゃん。ありがとう！こんなにきれいなものを見せてくれて。

ケトル ……

がつちゃん ケトルちゃん？どうしたの？

ケトルは急にその場に蹲ってしまう。

がつちゃん ケトルちゃん？

N がつちゃんはどうしていいかわかりません。神様のことを思い出します。がつちゃんはケトルちゃんを抱えて走り出しました。

### ⑬神様の診察室

少年が診察室に駆け込んでくる。

神様 見せてみなさい。

がつちゃん ねえ、神様。ケトルちゃん、どうしちゃったの？

神様はケトルの身体を調べる。

神様 ……がつちゃん。どうしてケトルちゃんを外に連れ出したりしたの？ケトルちゃんは病気なんだ。駄目じゃな

いか。そんなことをしたら。

がつちゃん ……でも、

神様 (遮って)「でも」じゃない。

がつちゃん ……

神様 今日はもう帰りなさい。

### ⑭がつちゃんと冷蔵庫のお家

冷蔵庫は電話をしている。  
隣にはがっちゃん。

冷蔵庫 はい……はい……そうですか、わかりました。どうもご迷惑おかけしまして……はい……はい……

と受話器を置く。

がっちゃん ケトルちゃん、どうだった？

冷蔵庫 大丈夫だって。

がっちゃん うわーん。

少年は冷蔵庫に抱きつき泣く。

冷蔵庫 大げさねえ。ただ熱が出ただけって。でももうこんなことはしちゃ駄目だからね。

がっちゃん ごめんなさい。ごめんなさい。

ポット あの後で、がっちゃんと冷蔵庫の奥さんがわざわざ家まで謝りにきたわ。でも私、全然怒ってなんかいなかったのよ。確かに娘は熱を出したけど、それ以上にがっちゃんと水族館に行けて嬉しかったみたいだから。

#### ⑮ケトルの病室

夕方。

ケトルの病室にがっちゃんが入ってくる。

がっちゃんはもじもじしている。

それに気がつくケトル。

ケトル あ、がっちゃん。

がっちゃん ……ケトルちゃん、この前はごめんなさい。

ケトル どうしてがっちゃんがあやまるの？私が無理やり行こうって言ったんだから、がっちゃんは全然悪くないよ。

がっちゃん うん……ケトルちゃんにこれ、あげる。

がっちゃんはポケットから魚のストラップを出す。

ケトル うわあ。どうしたのそれ？

がっちゃん この前、水族館で拾ったの。ストラップっていうんだって。昔ね、地球で流行ったんだって。

ケトル がっちゃん。私の取っ手のところにつけてくれない？

がっちゃん うん。

がっちゃんはケトルの取手にストラップをつける。

ケトル　かわいい？

がっちゃん　うん！！

ケトル　ねえ、がっちゃん。前から聞きたいことがあったんだけど聞いていい？

がっちゃん　何？

ケトル　がっちゃんは「にんげん」なの？

がっちゃん　なーに？「にんげん」って。

ケトル　昔、地球に住んでた人たち。本に書いてあった人間そっくり。

がっちゃん　ううん。僕、人間じゃないよ、僕、冷蔵庫だよ。

ケトル　でも全然がっちゃん、四角くないよ。

がっちゃん　……（身体を確かめながら）そうかな？

ケトル　がっちゃんは私たち家電製品よりも、神様っぽいもん。ねえ。神様も人間なのかな？

がっちゃん　ちがうよ！神様は神様だ！がっちゃんはがっちゃんだよ！

ケトル　……そっか、ごめんね。そうだよね。がっちゃんはがっちゃんだよね！

少年　そう！がっちゃんはがっちゃんだよ！！

神様が病室に入ってくる。

神様　やあ、がっちゃん。来てたのか。

がっちゃん　この間はごめんさい！お母ちゃんが神様にも謝れっていったから仕方なく謝る。

神様　おいおい。なんだか無理やり謝ってるみたいだな。もうしちや駄目だよ。

がっちゃん　うん！

神様　ちよつと外に行こうか、

二人は外へ出る。

外はすでに暗くなっている。

神様　がっちゃん、お空を見上げてごらん？

N　夜空には、満点の星が輝いています。

がっちゃん　神様、知ってる？このお空のどこかに水たまりのたまりちゃんが隠れてるんだよ？

神様　へえ。

がっちゃん　次、いつ雨がふる？

神様　一週間後にすごい雨が降るよ。台風っていうんだ。

がっちゃん　雨のことを台風っていうの？

神様 たくさんの雨にたくさんの風がいたら台風になる。でも台風はとっても危ないから、台風の日には家でじっとしてなきゃ駄目なんだ。  
がっちゃん ふうん。

神様は物思いに耽っている。

がっちゃん 神様、また宇宙の話して。

神様 いいよ。

がっちゃん やった。

神様 見てごらん、あのオレンジ色に光ってる星、あれが火星。

がっちゃん へー！

神様 火星にはね、今、人間がいつぱい暮らしているんだよ。地球がボロボロになってしまったから、みんな火星に移り住んだんだ……実はね。神様は人間なんだよ。

がっちゃん え？

神様 どう？びっくりした？神様はね、うまく人間になじめなかったから地球に残った落ちこぼれなんだ。

がっちゃん 嘘だあ！神様は神様だよ、がっちゃんはがっちゃんだよ。

神様 ……

がっちゃん ねえ、神様。ケトルちゃんの病気、ちゃんと治してあげてね。僕、約束したの。ケトルちゃんとお外でいつぱいいーつぱい遊ぶって。

N しかしがっちゃんの願いは聞き入れられることはありませんでした。

男は病室に飾られていた白い花を、ケトルに挿す。

#### ⑩神様の診察室

N そして運命の日がやってきました。外では微かに雨が降っています。台風の上陸が迫っているのです。

少年と神様がいる。

がっちゃん ……何それ。

神様 ケトルちゃんはどう動かないんだ。受けて入れてほしい。

がっちゃん なんで？神様を信じたらケトルちゃん治るってお母ちゃん言ってたよ。

神様 前も言っただろ。神様はただの人間なんだよ。

がっちゃん ……うそだ、うそだ、うそだ、うそだ。がっちゃんは神様のこと信じてるよ！

神様 ……がっちゃん。この世の中にね、神様なんていないんだよ。

がっちゃん 僕、ケトルちゃんのためならなんでもする。

神様 ケトルちゃんを治す部品は火星にしかない。

がっちゃん　じゃあがっちゃん、走って火星に行く。

神様　火星に行くには宇宙船が必要なんだ。もうこの星に宇宙船はないんだよ。  
がっちゃん　……神様のほかあ！

N　がっちゃんは外に飛び出し、ソラナックスの街を駆けていきます。がっちゃんは涙を堪えるのに必死です。あ！

がっちゃんは水たまりを踏んづけ、派手に転ぶ。

がっちゃん　たまりちゃんのほかあ！

走りつかれたがっちゃんはその場に座り込んでしまう。

がっちゃんはポロポロと泣く。

するとパトロール中の掃除機がやってくる。

掃除機　どうしたの？がっちゃん？もうすぐ台風がくるよ。早くお家に帰りな。

がっちゃんは掃除機にしがみつく。

掃除機　……何か悲しいことがあったのかい？

がっちゃん　ケトルちゃんがね。死んじゃったの。

掃除機　……そうか。それは残念だったね。

がっちゃん　もう僕、絶対神様を信じない！！

掃除機　神様は君のお友達だろ？

がっちゃん　もうお友達じゃない！神様のことなんて、もう知らない。

掃除機　本当に？

がっちゃん　……

掃除機　願いが叶わないからといって神様のせいにしちゃいけないよ。

がっちゃん　……もうケトルちゃんは目を覚まさないんだよ。

掃除機　まだそうと決まったわけじゃない。

少年　え？

掃除機　それは君次第だよ。僕は本が好きでね。図書館に毎日通っているんだけど、こんな本を見つけたんだ。

と本をがっちゃんに渡す。

表紙には『地球脱出マニュアル』と書かれてある。

掃除機　その中に書かれていた、火星に行く方法が。

がっちゃん　……でも神様言ってた。走っても火星には行けないって。

掃除機 走ってじゃない。宇宙船で行くんだ。

N でもいったいどうやって？

掃除機 ソラナックスの空き地にね。ミステリーサークルを作るんだよ。

⑰ソラナックスの空き地

N がっちゃんは掃除機を使って空き地にミステリーサークルを描いていきます。

雨も風も、どんどん強くなってきました。

がっちゃん できた！

掃除機 さあ。ケトルちゃんを連れてくるんだ。

⑱ケトルの病室

がっちゃんが病室に駆け込んでくる。

がっちゃんは動かなくなったケトルから花を抜き取り、連れていこうとする。

神様が現れる。

神様 何をしているんだい？

がっちゃん ケトルちゃんが目を覚ます方法、見つけたんだ。ミステリーサークルを作ったの。がっちゃん、ちょっと火星まで行ってくる。

神様 本当にそれでいいのかい？

がっちゃん え？

神様 宇宙船には人間が乗っている。ミステリーサークルは地球に取り残された人間のためのSOSのサインなんだ。彼らに発見されたらきつと君は火星で孤児として暮らすことになる。

がっちゃん ……ごめん、難しい。とにかくがっちゃん、部品を見つけたら帰ってくるから！

神様 無理だよ、がっちゃん。君は帰ってこれない……いや、違う。帰ってこないんだ……だって火星に行けばここで暮らしていたことすら忘れてしまうんだから……火星に行くってことはね、大人になるってことなんだ。そして大人になるってことはね、お母さんとお別れをしなきゃいけないってことなんだよ。がっちゃん。君にそれができるかい？

沈黙。

がっちゃんは迷った挙句、ケトルをベッドに戻してしまふ……

⑲少年と冷蔵庫のお家

がっちゃんがずぶ濡れになって家に帰ってくる。

外は雨と風で大荒れだ。

リビングでは冷蔵庫が待っている。

冷蔵庫　がっちゃん！こんな遅くまでどこ行つたの？もう台風がきてるっていうのに……心配していたのよ。  
がっちゃん　……

冷蔵庫　がっちゃん、どうしたの？

がっちゃんは冷蔵庫に抱きつく。

がっちゃん　……お母ちゃん。お友達との約束は絶対守らなきゃ駄目だよ？

冷蔵庫　……そうよ。

がっちゃん　お母ちゃん。約束を守る子はいい子だよ。

冷蔵庫　ええ……がっちゃんはとてもいい子。約束を守る子だから。

がっちゃん　がっちゃん、約束した。ケトルちゃんとお外で遊ぶつて。

少年は冷蔵庫から離れる。

がっちゃん　がっちゃんね。お母ちゃんのこと、お母ちゃんのこと……嫌い。

冷蔵庫　……え？

がっちゃん　お母ちゃんのこと嫌い……

冷蔵庫　どうしてそんなことを言うの？

がっちゃん　お母ちゃんのこと、嫌い！

がっちゃんは外へと飛び出す。

冷蔵庫　がっちゃん！！

土砂降りの雨の中、少年は再びケトルの病室へ向かい、ケトルを両手に抱える。

少年はケトルとソラナックスの空き地へと向かう。

すると空から宇宙船がやってくる。

少年は光に包まれて、宇宙船に吸い込まれていく……



男がリビングで寝ている。

チューニングの狂ったラジオが流れている。

すると作業服を着た人間たちが入ってくる。

男は目を覚ます。

リーダーらしき作業服の男は、男に目礼だけすると、アパートにある家電製品一つずつ運んでいく。

彼らはどうやら引越し業者らしい。

少年が部屋の隅っこで魚の本を読んでいる。

ラジオのチューニングが合い、ニュースが入ってくる。

ラジオ　番組の途中ではありませんが、臨時ニュースです。午前零時未明、地球に不法侵入し、家電製品などの骨董品を盗んでいたリサイクル業者のリーダーが、スターボックス火星1号店でカフェモカを飲んでいたところを発見され、逮捕されました。供述によりますと、ここ20年で1000個以上の家電製品を地球から持ち出し、火星で売買していたとのことです……

いつの間にか部屋からほとんどの家電製品が運び出されている。

引越し業者の一人が冷蔵庫を運び出そうとする。

男は首を振る。

引越し業者たちは男に一礼したのち、部屋から出て行く。

残ったのは冷蔵庫とケトルだけ。

ケトルが沸騰する音がする。

ケトルには魚のストラップがついている。

男はマグカップにお湯を注ぎ、紅茶を作る。

男は何を思ったか、もう一つ、マグカップを用意し紅茶を作り、テーブルに置く。

一つは自分の分。

もう一つは冷蔵庫の分。

冷蔵庫と男は向かい合って座っている。

少年は本を閉じて、立ち上がる。

ケトルを両手に抱える。

一瞬だけ男を見る。

そしてどこかへ消えていく……

冷蔵庫 がっちゃん。がっちゃん……

男は返事をしない。

冷蔵庫 大きくなったね……

男は一口だけ紅茶を飲むと、部屋を出て行く。

部屋には冷蔵庫だけが取り残される。

お母さんね、がっちゃんが火星へ行ったあと、お母さんもリサイクル業者に拾われたのよ……  
嬉しかった……

古道具屋であなたにまた会えた時は。

がっちゃん、大人になったね。

だからがっちゃんには、もうお母さんの声は聞こえないね。

でもこれだけは言わせて。

お母さんは、いつでもがっちゃんのお母さんだよ。

冷蔵庫のブーンという音が、誰もいない部屋で鳴り響いて……

終わり

#### 参考文献

『人間の土地』サンテグジェベリ著 堀口大學訳 昭和34年4月発行新潮社  
P246、著者年譜より。

『ニューイングランド医学ジャーナル』

The New England Journal of Medicine Volume 351:13-22 July 1, 2004